

2022年10月24日(月) 国崎 ウタセ真鯛 功成丸 ツレと
大潮:旧9/29

満潮 05:06(204cm) 干潮 11:09(51cm) 満潮 17:14(210cm) 干潮 23:27(36cm) 鳥羽
日没 17:08 鳥羽

自分 マダイ・チダイ 12尾(リリース含む) カンパチ(シオ) 44cm 2尾
ウマヅラハギ 1尾 35cm ホンハギ 1尾 22cm
ツレ マダイ・チダイ 10尾(リリース含む) カンパチ(シオ) 44cm 2尾
(マダイ26cm チダイ29cm マダイ・チダイのキープは二人で11尾)

08時30分 出発
10時45分 港着 高速、コンビニ
11時30分 集合
12時00分 出船
17時08分 日没:鳥羽
17時14分 満潮 210cm : 鳥羽
18時00分頃 沖上がり
帰宅後 魚の処理 2時間30分



【料金】 乗り合い 12,000円 氷付き
釣り座は抽選

【仕掛け】

自作仕掛け

ハリス5号100cm 幹糸5号 枝間120cm

伊勢尼12号3本鈎 捨て糸3号50cm

錘 10号~50号 (今日は潮の流れが速く80号使用:80号おもりを船長に借りた)

次回は、10号~100号を持参する。

※仕掛けとおもりは、一人2セットずつ持参すること。

竿 ウタセ真鯛用竿(自分) マダイ用竿(ツレ) 電動リール 竿受け

エビ用網 'かんこ'から魚をすくうためのタモ 魚を締めるためにゴム手袋 アイスピック ナイフ

電動リール 自分:シーボーク300J ツレ:BeastMaster3000XP シーボーク用バッテリー



【様子】

○釣り座の抽選は4番くじ。右舷胴(後から2番目、3番目)に並んで釣ることにした。

○天気は晴れ、風も波もあった。だんだん強くなった。

○酔い止めは10時30分に飲んだ。当然、酔わなかった。

○仕掛けの流れる向きは、初め、みよし側に流れ、途中、自分の前方に、やがて、艫側に、最後は、真下となった。

○「水深4?m。錘は80号。流れが強いようだったら100号に変えてください」とアナウンスがあった。

○最近、自動巻き上げで釣果を上げたので、今年も同様の釣り方で釣ることにした。

○着底したら直ちに巻き上げ、スピード1~7までを試した。遅いと餌取りにやられ、速いとタイが食ってこない。スピード5くらいがちょうど良かった。(今回はおもり80号である)

- 以前の記録では、「シーボグはおもり30号でスピード5がちょうど良かった。(前回も、スピード5だった。)」とある。
- 底から巻き上げてくると小さなタイが掛かってくると感じたので、底から3～5m上を巻き始めにするようにした。これでキープサイズが取れるようになった。(それでも小さいが…)
- やがて当たりが止まった。流れが速くなった。底から巻き始めると餌取りにやられた。流れが速いことから底から5m上を巻き始めにして巻いた。当たりがあった。まん中の鉤にホンハギが掛かった。上下の鉤には餌が残っていた。底から5m上を巻き始めにして底から10mまで巻いた(おそらく餌が残っているだろう)後、底まで落として再び巻き始めた。当たりがあり合わせた。少し大きめの引きであるが、途中でばれてしまった。逃がした魚は大きいか…。これを繰り返したがダメだった。船の移動となった。
- タまずめに近づいてきた。カンパチ狙いで移動。
- ツレがカンパチを釣った。「底から4m上」とのこと。やがて、同船者が釣り「底から3m上」とのこと。
- 底から3m上で待つことにした。釣れたタイやシオを締めようとして置き竿にしかけたとき、大きく竿が曲がった。シオのダブルだった。上の鉤と下の鉤に掛かっていた。底から3m～5mにシオが回ってきたということだ。
- この間、ツレの仕掛けがリーダーから切れていた。新しい仕掛け(ハリス1.5m)をセットして釣り始めたが、当たりもなく納竿となった。
- ハリス1.5mは扱いにくい。やはりハリス1mでよい。

【釣り方1】 餌取りをかわして本命をねらう

- おもりが着底したら、直ちに電動で巻き上げる。巻きスピードは餌取りに餌を取られない速さである。底から10m上まできたら、仕掛けを少し止めてから再び底まで落とす。2～3回繰り返して釣れなければ、餌チェックをする。
- 餌取りにやられないスピードで、底から巻き上げてくる。
できるだけ遅いスピードで、かつ、餌取りにやられないスピードで巻き上げてくる。
- 巻きスピードは時間帯によって変わるので、餌チェックで確認する。
(以前の記録から)

	前半	後半
シーボグ300J	おもり30号 スピード5	おもり40号 スピード 1～2
BeastMaster3000XP	おもり30号 スピード4	おもり40号 スピード 2
- 当たりが渋いときは、巻き上げ中に時々誘いを入れる。誘いをいれた方がよいときもある。
- 仕掛けが着底したら、すぐに巻き上げに入る。スピードは考えなくてよい。糸が張ってから調整すれば良い。
- 底から巻き上げてくるとチャリコばかり釣れてくるようなときは、底から3mあたりを巻き始めにする。

【釣り方2】 餌取りにやられることを覚悟のもと、底で釣る。

- 「おもりが底をたたくようでは釣れない。おもりを浮かしておくか、底につけておく。」と聞いたことがある。これまでおもりを底につけて、糸を吹かせておいた方が釣れたという実績がある。
- 糸を吹かせる量で釣果が変わることがある。

【カンパチの釣り方】

- 底から3m～5mのところ待つ。
- 同船者が釣れているようなら、釣れた水深で待つ。

※釣れないと感じたら、いろいろ試す。活性が高いときにはダブル・トリプルを狙いたい。

※釣り日記を読んでから釣行したい。